

4月10日(月)

神の働かれるわけ

聖書朗読 詩篇 50:12~15

神のわざがこの人に現れるためです。

ヨハネ 9:3

我が家に第一子が誕生した時、我が子にミルクを飲ませたり、お風呂に入れたり、着替えをさせたりと様々な世話をするのに喜びを感じたものです。この時期、もちろん私たちは娘から見返りなど一切求めることはありませんでした。ただ娘を見て面倒を見てあげることが喜びだったのです。

イスラエルの人々は、神様が私たちから何かを求められることは決してないということをししばし忘れていました。神様は決して怒らず、渴きもせず、風邪を引いたりすることもあります。万が一そのような事があっても、神様はすべてを持っておられ、金銭の力になびいたり、代金を支払ってもらったりするようなことはありません。

その代わりに神様が望んでおられることがあります。神様はこうっておられます。「苦難の日にはわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出そう。あなたは私をあがめよう。」と(詩篇 50:15)。そうです。神様はご自身のこどもたちを救い出し、助け、恵まれることを喜んでおられるのです。私たちが感謝を捧げることが、神様を喜ばせることです。それは気持ちを高揚させるためではなく、それによって私たちが喜びを感じ、他の人々も同じ喜びを神様に求め受け取るよう促すものだからです。

今日、あなたはどのような助けが必要ですか。神様はあなたの声を熱心に聞こうとしておられ、あなたとそしてその周囲の人々が恵まれるよう、それに応えようとしてくださっています。

讃美歌 517

祈り 親愛なる主よ。私の祈りを喜んで聞いてくださることを感謝します。あなた様がこれから先、成してくださる事を期待しています。善を成してくださるあなた様を褒め称えます。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

イアン・k・シェルブルン
テキサス州 アビリン

今日之力

2023年4月10日~4月16日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

4月11日(火)

誓いを新たに

聖書朗読 詩篇 50:14~23

感謝のいけにえを神にささげよ。あなたの誓いをいと高き方に果たせ。

詩篇 50:14

恐らくあなたやあなたの知人たちも、喜びに溢れた厳かな結婚式とそれに続く披露宴で結婚の誓いをあらためて確認したことでしょう。今日の詩篇の箇所はそれと同じです。私たちはバプテスマにおいて神様に誓いをし、神様は私たちの神となり私たちを養ってくださると誓ってくださいました。神様はその約束を守ってくださいています。私たちも守らなければなりません。

確認した結婚の誓いというものは、夫あるいは妻に日常どのように接しているかによって、その真実が測られるのではないのでしょうか。素晴らしい結婚というものは、自己犠牲と私欲を捨てた姿勢の上に育まれていくものです。私たちが互いに仕える上で最も大切なことの一つは、相手に真剣に耳を傾けるということでしょう。

これこそ私たちの神様との約束です。神様に従っていると言いながら神様に耳を傾けていないのであれば、それは全く意味のないことです。この約束は、みことばを通して神様に聞き、神様の造られたものを通して神様に耳を傾け、人生のあらゆる出来事において神様に耳を傾けることです。聞くことは従うことです。そして神様に従うことは喜びでもあるのです。

讃美歌 84

祈り 忠実なる神様、私たちが心から信頼することの出来るあなた様の恵みを褒め称えます。私たちの心を開いてあなた様に聞き、従い、そして私たちを喜びに溢れさせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ゲイリー・ホロウェイ

テネシー州 ナッシュビル

4月12日(水)

恐れか信仰か

聖書朗読 詩篇 56

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。
Iペテロ 5:7

「恐れのある日に、私は、あなたに信頼します。」(詩篇 56:3) 私たちは子供たちに、とりわけこの世に恐れがあるとき、神様に完全に信頼し委ねていくことが出来るよう、このみことばを教えています。私たちは揺らいでしまう事がありますが、ダビデでさえ詩篇にあるように落胆と信頼の間を彷徨っています。私たちの信仰も、信頼できるときと、絶望と思うときがあり、浮き沈みがあるものです。

私たちは自分の感情について、本当は恐れではなく、答えが欲しい問題について理性的に懸念しているだけだと、説明しようとするかもしれませんが。信仰心が無いのではなく、起こり得る問題に最善の策で対処出来るよう、それを知っておきたいと思っているだけだと。本当は心配などしていない。ただ今後起こり得る好ましくない出来事を、知的に理解しようとしているのだ、何より「備えあれば憂いなし」だと。このように考えている自分に気付くことはありませんか。

けれども、むしろ恐れがあるからこそ、私たちは忠実なる神様に立ち返るのだということが最も大切なのではないのでしょうか。ダビデと同じように、私たちも神様が忠実であるという確信が与えられています。神様は私たちとともにいてくださり、私たちの前にあって、私たちが困難に遭う前にそれに備えてくださっています。ダビデと同じように私たちもこう言うことができます。「それは、わたしが、いのちの光のうちに、神の御前を歩むためでした。」

讃美歌 242

祈り 親愛なる主よ。私たちが不安と恐れをもって未知の将来に立ち向かっていたときも、あなた様が私たちとともにいてくださったことを知って、感謝します。様々な事柄に立ち向かうために、あなた様の力とご臨在への信頼を深めさせてください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ノーマ・ブリヴィティ

カリフォルニア州 サウザンドオークス

4月13日(木)

重荷に耐える強さ

聖書朗読 詩篇 68

ほむべきかな。日々、私たちのために重荷をになわれる主。私たちの救いであられる神。
詩篇 68 : 19

物事がうまくいかないと思うとき、いつも私は自分の全能力を集中させ、神様にさらに強さを与えてくださるようにと願い求め、そしてなすべき重荷に取り組むようにしています。私は自分を「ちょっとやそつとではへこたれない者」と思っており、悪魔に、「もし私が屈すると思ったなら、選ぶ相手を間違えたものだ」と言うのです。

聖書を読んでいて詩篇38篇に導かれたのですが、この箇所、重荷を負うのは自分ではないということに気付かされました。私の重荷を負ってくださるのはどなたかということを変更して覚え、この真理を確信させられる他の聖書箇所もすぐに調べました。

「あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる。主は決して正しい者が揺るがされるようにはなさない(詩篇5:22)」、「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもって捧げる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい(ペリピ4:6~7)」。

神様に強さを求めることをやめた方がよいでしょうか。いいえ、やめるべきではありません。私はこれからも常に人の限界を超えた御力を必要としますが、さらに他にも求めようと決めました。それは重荷を負う力ではなく、神様に重荷をおろすことへの信頼です。

讃美歌 291

祈り 親愛なる主よ。私に自分の弱さを認めさせ、あなた様に完全に委ねさせてください。今この時、あなた様の足元に私の重荷をおろします。あなた様のもとに荷をおろすことをお許しください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

パット・アンドリュウ
テキサス州 アビリン

4月14日(金)

何が来ようとも

聖書朗読 詩篇 70

あなたを慕い求める人がみな、あなたにあって楽しみ、喜びますように。
あなたの救いを愛する人たちが、「神をあがめよう」と、いつも言いますように。
詩篇 70 : 4

私は発展途上の国の病院で、自分を憐れに思いながら横たわっていました。その病院の医者は私の症状が軽いため鎮痛剤をくれなかったからです。横たわっていると、片足を壊疽のために切断され、もう片方も切除することとなっていたある年若い紳士が、讃美歌「しずけき河のきしべを」を歌い始めました。そのバリトンボイスはとても素晴らしい、すぐに10人くらいの男性患者もそれに加わり、蒸し暑く汚れた病室は、負傷した患者たちの神様を称える天使の歌声に包まれました。彼らが一節一節歌い進め、「うきなやみの荒海をわたりゆくおりにも、こころ安し、神によりて安し」の箇所に来たところで私も記憶を頼りに讃美に加わろうとしました。

最後に「アーメン」と言った時、私はこの経験を神様に感謝しました。私は自分の状況を他にはない苦しみと思ひ苛立ちを覚え、また、自分を不憫だと思っていました。けれども、私の周りにいた私よりずっと深刻な苦しみを抱えた人たちが、神様を褒め称える姿を見て、心を深く動かされました。私はこの日、時が良くても悪くても神様を褒め称えること、そして、主にあって救われたことを常に感謝することに気付かされました。

讃美歌 520

祈り 親愛なる救い主なる神様。身体的に苦しみ、霊的に躓くとき、あなた様を称えさせてください。あなた様だけが私たちの希望です。あなた様に信頼させてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ウィリアム・E・マクドナウ
オーストリア ザルツブルク

4月15日(土)

住 ま い の 岩

聖書朗読 詩篇 71:1~3

私の住まいの岩となり、強いとりでとなって、私を救ってください。

詩篇 71:3

私は兄弟と、子どもの頃、牧場の家から40ヤードほど離れた納屋から丘の上まで、スギの木や泥や石を使って辺境の要塞を築き、あらゆる敵を想定し、いかなる攻撃からも私たちを守ってくれる隠れ家を造ったことがあります。食糧としてピーナッツバターとクラッカー、そして軍用の水筒を備え、私たちはいかなる敵にも備えができたと信じていました。

私たちは誰もが安全で安心する隠れ家を必要としています、私の幼少期の遊びのような自分で作ったものでは、自分の望む安全や安心は得られないということにいずれ気付かされるものです。

けれども、私たちの砦であり守ってくれるものが一つだけあります。聖書学者たちの推測によれば、今日の聖書箇所は、ダビデが息子アブサロムの反逆によりエルサレムから逃れる際に詠んだもののようです。もしそうだとすると、ダビデは多くを失いましたが、彼の神様に対する信仰は揺るがなかったということです。私たち誰もが望む守りや避け処について語りながら、ダビデは神様への信頼を表わしています。

私たちが主に信頼するとき、私たちには真の家、守りと備えある安全な場所があるのです。

讃美歌 267

祈り 主よ。あなた様だけがお与えになることのできる避けどころを感謝します。私たちを包み、敵に対するあらゆる恐れを振り払ってくださるあなた様の愛をとりわけ感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

クリス・フリッツェル
テキサス州 グランベリー

4月16日(日)

私 の な す べ き 事

聖書朗読 詩篇 71:5~18

私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦と災いです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。

詩篇 90:10

私は鏡を見て思うのです。このしわはどこから来たのかと。母方ではなく父方の祖母の肌質を受け継いでしまったことを不満に思います。

けれども、気に掛けるべき事は、外側の見た目、老いの過程に伴う、記憶力の衰え、動きの鈍化、あちらこちらの痛みといったことではなく、大切なのは自分自身の心、日々イエス様をどのように証しているかということです。

私たちのユースミニスターは若い人たちに「イエス様をよく表すように」と促していますが、それは若い人たちだけが気づかされるべきことではありません。私も年を重ねるごとに、さらにイエス様のことを他の人たちに証していきたいと思えます。

スーパーでも、レジの人に微笑みかけその人の名前を呼んで、イエス様のことを分かち合うことができます。これまで彼らの名前が大きく名札に書かれていることに気が付きませんでした。それは「私を見て。私にはきちんとした名前があるんです」と言っているように思えます。声を掛けると、明るい笑顔が見られます。私たちが愛することが求められています。

私たちは老いて行くに連れ、影響を与えられる範囲も以前と比べ狭まってくるかもしれません。それでも私たちはイエス様のことを証して行くことが出来るのです。

讃美歌 502

祈り 親愛なる神様、私たちの救い主なる主よ。日々私たちをお導き下さり感謝します。私たちがあなた様に誇らしく思っていただけのような歩みをさせてください。あなた様の御子のお名前によって。アーメン。

ラニタ・ブラッドリー・ボイド
ケンタッキー州 フォートトーマス